

研究・調査報告書

報告書番号	担当
191	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The role of prenatal alcohol exposure in abruptio placentae. 常位胎盤早期剥離の妊娠中の飲酒の影響	
執筆者	
Du Toit MM, Smith M, Odendaal HJ.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
S Afr Med J. 2010 Dec 1;100(12):832-5.	
キーワード	
妊娠中の飲酒 常位胎盤早期剥離	
要 旨	
目的： 妊娠前および妊娠中の飲酒と常位胎盤早期剥離の関係を調査する。	
方法： 南アフリカの西ケープの Tygerberg Academic 病院で常位胎盤早期剥離の症例 65 例と対照例 66 例のケース・コントロール研究で行った。妊婦 24 週以上で、出産時に常位胎盤早期剥離面の凝血塊が全胎盤の少なくとも 15%以上をしめる産婦を対象に妊娠 12 か月前、妊娠前 3 か月前及び妊娠中の飲酒について質問をした。	
結果： 妊娠 12 か月前の飲酒のオッズ比は(4.49)。妊娠 3 か月前の飲酒のオッズ比は(3.06)。妊娠中の飲酒のオッズ比は(3.52)であった。妊娠 12 か月前の飲酒は平均すると週に 13.6 回。妊娠 3 か月前の飲酒は平均すると週に 12.0 回。妊娠中の飲酒の飲酒は平均すると週に 11.2 回。しかも月に 2~4 回は度を越した飲酒をしている。	
結論： 妊娠前および妊娠中の飲酒と常位胎盤早期剥離の関係はある。	